

産業衛生技術部会専門研修会

地元企業の労働衛生管理の実際

5月19日(土) 9:00~11:00

D会場(くまもと県民交流館パレア 9F 会議室1)

座長: 宮内 博幸(産業医科大学 産業保健学部 作業環境計測制御学講座)

演者: 1. 地元企業の産業衛生活動

中川 剛(株式会社野田市電子)

2. 一黒崎播磨株の労働衛生管理について

安部 太喜(黒崎播磨株式会社 安全環境防災部)

座長の言葉

平成29年3月に働き方改革実現会議が決定され、働き方改革実行計画が策定された。この計画は働く人の視点に立った働き方改革として大変意義がある。現在の日本の経済社会の現状を踏まえ、日本の労働制度と働き方にある課題を正面から問いかけるものである。計画の具体的な内容はガイドラインに示された。ガイドラインでは、基本給の均等・均衡待遇の確保などの待遇面におけることからのほか、生産性向上に取り組む企業等への支援が上げられている。さらに罰則付き時間外労働の上限規制の導入など長時間労働の是正のほか、柔軟な働きやすい環境整備をすることが重要視されている。具体的には多様な女性も活躍推進する方法、病気の治療と仕事の両立、働いている男性の育児・介護等への参加促進のほか、高齢者の就業促進を踏まえた環境の整備などがあり、今後の日本が乗り越えなくてはならない重要な課題ばかりである。

これらから言えることは、組織アーキテクチャーは人がポイントになる時代ということである。なぜならば労働人口が減り、かつITC、ロボット化が進む中、どうしても少ない人が重要な判断をし、制御しなければならない大きな転換期に直面しているからである。いかに正しい判断を下すことができるかは、その人の考えや、価値観が大きく影響する。その時に重要なのが、その人自身の能力のみならず、その人を取り巻く企業、家庭、社会環境とその時の体と心の状態である。この環境中Performance shaping factorが良好であれば、その時の状況を正しく認識し、正しい判断を下すことができる。しかし、劣悪な環境であれば発揮できる能力は下がるであろう。体と心が良好であれば心にゆとりができ、相手を思いやる気持ちも生まれる。そして、冷静に状況を見つめ、より正しい判断をすることが可能となろう。つまり、良い人間関係、チーム、組織をつくることにより人間の能力を最大限に生かすことができ、仕事を通しての幸福な生活を送ることが可能となる。

労働現場では、潜んでいる有害なものをいち早く予測して排除することが重要と言える。この有害なものとは、たとえば化学物質、無理な作業の仕方、好ましくない生活スタイル、無駄な動作や作業時間などである。一方、良いものをどう取り入れるかも重要だ。その意味では多くの人の意見を聞き、自分の考えに対しても批判の目を向け、自問自答する謙虚な心構えが重要と言えるだろう。まさにこれが労使の協働による働き方改革実行計画の推進の神髄ではないだろうか。

九州地方は豊富な資源に恵まれた地域であり、日本の近代化を支え続けていた。九州地方の産業の歴史は、日本の産業振興の歴史であるとともに、安全衛生管理の歴史である。そして、現在では素材産業やエネルギー産業のほか、窯業やIT産業にもおよぶ発展を続けている。本研修会では九州地方で長い歴史をもち、活躍されている二つの企業の方にご講演をお願い致した。九州地方が作り上げてきた文化を背景に、これからの働き方がどうあるべきかを考えてみたい。